

冷凍空調機器の安全点検、整備等の支援の実施について

(社)日本冷凍空調工業会と(社)日本冷凍空調設備工業連合会は、共同して東日本大地震の被災地の復興のため、冷凍空調設備の安全点検、整備及びフロン回収について全面支援するための支援チームを立ち上げました。

平成23年3月11日に発生しました「東日本大震災」により、被害を受けられました地域の皆さま、ご家族の皆さまには心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

このたびの未曾有の大地震は、想像を絶する被害となっております。また、今や産業や生活の基盤となっている冷凍空調機器についても多数損傷等の被害を被っていると思われま

す。そこで、(社)日本冷凍空調工業会(日冷工)と(社)日本冷凍空調設備工業連合会(日設連)では、共同して損傷、水に浸かった冷凍空調機器の安全点検や整備、フロン回収など、出来る限りの支援を行っていく所存です。

被災地では日冷工、日設連の会員関係者の多くの事業者が人的・物的に多大な被害を被っておりますが、冷凍空調機器を取り扱う業界としての社会的責務と被災地の一日でも早い復興を図るために、全国団体として支援の輪を広げ、支援してまいります。

ご承知のとおり、フロン回収・破壊法においては、地球温暖化防止のため、冷凍空調機器に含まれるフロンガスは、大気に排出せず回収することが義務付けられております。このため、冷凍空調機器からのフロン回収や配管からのフロンの漏えい・大気排出を防止するための応急処置など、両団体が支援チームを立ち上げることになりました。具体的には、現地の状況を踏まえ、行政機関や(社)日本フロン回収事業協議会等の関係機関と緊密な連携を図り、下記の対策を講じてまいります。

1. 一日でも早い復興ため、被災した冷凍空調機器について、稼働できるかの安全確認、点検の支援を行います。
2. 稼働可能である機器については、整備等を行い、機器の復旧を支援します。
3. 修復不可能と判断された機器については、速やかな機器の撤去ができるよう、早急にフロン回収の支援をします。

なお、冷凍空調機器には、フロンやアンモニア等の高圧ガスが冷媒として充てんされており、その取扱いには専門的な知識が必要ですので、安全性を確保できる専門の技術力を有する技術者を派遣します。

社団法人 日本冷凍空調工業会
会長 有馬 秀俊
社団法人 日本冷凍空調設備工業連合会
会長 神宮 晃